

平成26年度「みえの現場・すごいやんかトーク」(朝日町)の概要 【速報版】

6月22日(日)に朝日町役場2階会議室で「みえの現場・すごいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「アイリスあさひ」の皆さん9名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

【活動紹介】

Q、この活動に参加して、良かったこと、嬉しかったこと、感動したこと、やりがいを感じたことはありますか？また、自慢話はありませんか？

○女性も男性もお互いを理解し助け合い、一人ひとりを抱えている朝日町を作りたいと願い、活動してきた。15年間の活動を振り返ると男女共同参画という言葉もなじんできたし、女性が働きやすい職場づくりも進み、イクメンという言葉も使われるようになってきたと思う。

○料理教室は、「家事をもっと楽しもう！料理って自分で作ったら楽しい！家族のために作ったら喜ばれる！」ということで開いているが、料理や子育て等の家事に関わる父親が増えてきたと感じる。

○講演会は、父親の子育て、本の読み聞かせ等をテーマとしたが、朝日町の新しい団地の方や、30~40代の若い世代の方が一番多く参加していただき、嬉しかった。

○映画祭や講演会などの活動に年々参加される方が増えてきて、ありがたく思っている。

○活動を通して、いろいろな面で少しずつではあるが、自分自身が成長してきていると思う。また、地域の方と交流が深くなって、本音でお話合いができるようになり、嬉しく思っている。

- 地域貢献しようということで、やらせていただいている。映画祭では、沢山いろんな方とご縁をいただいた。自分が人の役に立てることがありがたいと思っている。
- 女性議員がもう一人か二人誕生していただきたいと思っている。女性の議員が増えれば、女性の活動も活気が出ると思う。
- 県の表彰では、会長だけでなく会員が育っている、成長しているところが評価されたと同じ、嬉しかった。会員が育っている例としては、男子の料理教室で、会員が交代でリーダーをやっていくようになったことである。
- 講演会担当、親子料理教室担当というそれぞれのグループで会員が自主的に活動できているというのが、自慢で、これが続いていることが、本当の良さだと思っている。
- 父の介護をされていて事業に参加できない時期があったが、当時の会長から、辞めずに会に名前を残すよう言われて嬉しかった。こういう会の絆というのが大事だと思っている。
- 自分自身が感動しないと、こうした活動は成就しないと頑張って頑張っている。
- 参加者から男性料理教室はずっと続けて欲しいって言われた。その時、とても嬉しくて、一人の人でも根付いてもらったら、それがだんだん、広がっていくのだと感じた。
- 映画祭でアンケートを取らせていただいたが、介護は女性だけじゃなくて男性もやるべきだとか、すごく今後のためになったという意見が多くて、よかったと思った。

Q,男女共同参画が進んでいくためには、こんな課題があるんだとか、行政はこんなところを頑張ってもらいたいなどありませんか？

- 「男女共同参画」をよく知らない方もまだまだみえるということが、この活動を通じてわかってきた。
- 育児に理解のあるリーダーが育つことがとても大事って聞いた。育ボスが増えたらいいなって思った。しかし、男性が育休を取りにくい職場もあるので、理解ある職場づくり、理解ある社会づくりというのが、これから大事になると思う。
- 育児休暇の件で、大企業とか公務員などは産休や育児休暇を取っている方もみえるが、中小企業は復職時のことなどから取りにくいところもある。中小企業においても、産休や育休について、もう少し柔軟な決まりを作っていただくといいなと思う。
- 介護施設にも、働きやすさという文化をもっと入れて欲しい。そしてお互い頑張りましょうというそういう意欲がある介護施設になったらと思う。
- 食生活の改善に関して、朝、ご飯を食べさせない親がいる。お家の中で子どもとの触れ合いがどうなのかなと思う。自分が働くことで精一杯で命の尊さみたいなことが、なおざりになっていないかと思う。

【知事の発言】

- 「アイリスあさひ」が15年間続いているというのは、みんなが役割を持ち、みんなが責任感を持ってやっているからで、それが組織として長く続く秘訣なんだと感じた。
- 会の活動が長続きするもう一つの秘訣として、無理がないということが大事だと思う。三重県庁では今年度からワーク・ライフ・マネジメントを行っている。みんな

の実情に合わせた無理のない形というのが長く活動するうえで大事だと思う。

- 育児休暇については、三重県庁では、男性の育児休暇の取得を進めており、日本全国の取得率が 1.89%で非常に低い中、昨年、10%という目標を立てて、実績が 13.04%になった。
- 県庁部内で育ボスを進めている。育児休暇が取れなかったら、介護休暇なんてもっと取れないぞと言っている。
- 育児休暇に関して、三重県は今年度から企業の皆さんにパタニティハラスメント防止啓発の事業を予算化した。また、マタニティハラスメントについても知っていただく啓発事業を三重県でやろうと思っている。
- 三重県は、今年度「企業子宝率調査」という、中小企業で、子育て支援をうまくやっているところの調査をして、それを県内で水平展開していこうとしている。そういうことで中小企業の皆さんを応援していけるようにしたいと思う。
- 例えば、フィンランドにはネウボラという、家庭を支援する仕組みがある。そこでは母子保健のことや、子どもへの食、課題がある家族について支援している。
- 家族を形成する一方の当事者である男性が、自分も家族の一員なんだということについて、もっと意識を持つということが大事だと思っている。
- 6月27,28日に四日市で「ファザーリング全国フォーラム in みえ」というのをやる。全国から、育児男子頑張ろうという人達が来てくれる。是非「アイリスあさひ」の皆さんにも、お越しいただければと思う。



【アイリスあさひの皆さん】とは

平成11年に制定された「男女共同参画社会基本法」に基づき男女が共に力を合わせながら、性別に関わりなく個性や能力を十分に発揮できる男女共同参画社会を形成していくために、講演会、男性料理教室、視察、勉強会等を実施している皆さんです。今年で設立15周年を迎えられます。